

2024秋のナースウェーブ

at 四条大宮 #人を増やして寄り添うケアを!



60名
参加!!



11月16日(土)、四条大宮にて「2024秋のナースウェーブ」を行いました。参加者は60名。プラスターを持ってのアピールや、署名へのご協力をお願いしました。続くリレートークは6名が現場からの訴えを行いました。

現場からのリレートーク

●京都民医連中川会長

日本の医師数は、人口あたりで見ると先進国で最低で長時間労働。現在は勤務医の4割が、過労死ラインを超え。医師や医療機関は減らすのではなく増やして、診療報酬も増やして、医療サービスを守ろう。病院は地域のインフラ。介護事業所の倒産も、すでに過去最多を更新し介護崩壊の状態。慢性的な人手不足や物価高騰にくわえて、とどめを刺したのが、今年の介護報酬の切り下げ。何より看護師が足りない。看護学生が減り、看護学校が閉校、コロナ禍を経て退職が多く人手不足が深刻化。心身ともに疲れ果てて、22年の医労連の調査では、8割が慢性疲労に該当する状態で仕事をやめたいと思っている。減らそう夜勤、増やそう看護師。減らそう当直、増やそう医師。介護は、減らそう倒産、増やそう笑顔。皆さんの力を貸してほしい。



●市職労病院支部 辻本さん

コロナ禍以降看護師の業務負担は確実に増加し退職者も増え、病院は看護師不足で1病棟閉鎖。人員不足は解消されず現時点で定員割れ。業務に追われるばかりで患者さんに必要な看護ができていないのではないかと。働き続けたいが人員不足で過酷な労働環境に疲弊。市立病院は経営難を理由に賃上げを拒否。職場は慢性的な人員不足であるにもかかわらず業務負担は増加。これでは看護師はやめていく。これから目指す人もいなくなるかも。看護師のみならずケア労働者全体の処遇改善が早急に必要。わたしたちは看護師を続けたい。みなさんの力を貸してほしい。



●京都民医連中央病院 福井さん

緩和ケア病棟の実態について。回復された方や痛みをコントロールした方などの療養生活の実態は老々介護や、働き盛りの方は介護者がいないケースも。癌末期や座薬使用では入れる施設が少なく、また料金も高く入れない。だれもが安心して在宅施設で過ごせる、そんな対策や支援をしてほしい。看護師や介護職は人員不足でいい看護・介護したいと思っても、忙しさでやめていく悪循環。看護師介護職の処遇改善が必要。

●全医労南京都 山崎さん

国立病院は、国の直営ではなくなったため、セーフティーネット医療を担いながら、収益を出すことが求められている。人件費抑制のため私たちの給料は低くおさえられ、看護師の数はとても少なくなっている。病棟では、ナースコールが鳴っても、「ちょっと待ってください」「すみません」「あと10分したら行けます、ごめんなさい」の言葉を1日に何度も何度も患者さんに繰り返し言っている。ベッドで看護師が来るのをずっと待っている患者さん、一刻も早く行きたいベッドサイドへ行きたいのに行けない看護師。一方、黒字は、コロナ補助金も含めて国庫に返納された。一体何に使われたのか？軍事費？さらに公的病院は統廃合の計画が。私たちの大事な税金は、もっと医療・福祉・教育に使ってほしいし、使うべきだと思う。どうか、私たちと一緒に声をあげて、立ち上がってほしい。



●近畿高等看護専門学校 看護学生と塚田さん

看護学生：わたしたち看護学生は実習中バイトに入れず。奨学金を借りているが将来返せるか不安。奨学金を返すために今からバイトでお金をかせいでいる子たくさんいる。経済的な理由で夢をあきらめる人を作ってほしくない。看護学生だけでなくほかの学生も同じと思う。

塚田さん：看護学生は多くの学生が何らかの貸与型奨学金を受けており、食費や水道光熱費を削りながら生活している。学生が学ぶことは権利で保障されるべきもの。世界では給付型奨学金がスタンダードなのに日本ではそうではない。看護学生のみならず若者が経済的心配なく学び、学びを生かして社会の中で役割を發揮していく社会をめざそう。高等教育無償化には未来がかかっている。



●桂病院労組 大野さん

自分は患者さんのためにできることとして看護を学んできたが、今の看護師とは看護師像が変わってきていると思う。今は人員不足の中で患者さんの立場に立った看護ができなくなっている。ナイチンゲール覚書に看護の根本が示されており、こういうことに目を向ける看護師がふえてほしい。そのためには処遇改善が必要。他産業と比べて看護師は賃金が安い。国の進める医師のタスクシフトは、患者さんのためだけでなく業務合理化のため。そうではなく自分の描く看護師像が実現できる、そういうものにしていきたい。



○人を増やして寄り添うケアを！
参加されたみなさん、お疲れさまでした！